

北海道医療計画北網地域推進方針

第1 基本的事項

1 作成の趣旨

(1) 平成30年3月に北海道が策定した「北海道医療計画」(～H35)(以下、「道計画」という。)においては、計画の中核をなす疾病や事業に係るそれぞれの医療連携体制の構築と推進については、地域単位で、保健所が市町村・医療機関・関係団体等とともに取り組むこととなっていました。

このため、第二次医療圏の中心となる保健所は、この計画の策定に合わせ、地域の実情に応じた医療連携体制を構築し、円滑に推進するための指針として、平成30年9月に「北海道医療計画北網地域推進方針」を作成し、その後、令和4年3月に道計画が一部改訂されたことに伴い、見直しを行ったところです。

(2) この度、令和6年4月を始期とする新たな北海道医療計画が策定されたことから、新たな「北海道医療計画北網地域推進方針」を作成することとしました。

なお、この方針は、第二次医療圏ごとに設置している保健医療福祉圏域連携推進会議において、目標の達成状況や施策の進捗状況の評価を行っていただくこととし、5疾病・6事業及び在宅医療に係る医療連携体制の構築と、難病及び歯科保健医療に係る地域保健医療対策の推進により、道計画の円滑な推進を図ることとしています。

2 推進方針の期間

北海道医療計画に合わせ、令和11年度までのおおむね6年間とします。

3 地域の概況

(1) 地域の特性

ア 北網地域は、北海道の北東部にあるオホーツク総合振興局管内の南東に位置し、周囲は遠紋、上川中部、十勝、釧路、根室の各圏域と境界を接しており、総面積は5,542平方kmで、愛媛県に匹敵する広さを有しています。

イ 気象は、オホーツク海沿岸地域は海洋性気象を示し、比較的温和ですが、冬季には流氷の到来により全海面が結氷することもあります。

一方、北見内陸地域は一年を通して寒暖の差が大きく、年間降水量は我が国で最も少ない地域のひとつとなっています。

ウ 主要産業は、農林漁業の一次産業及びその資源を活用した農林水産加工と国立公園等を中心とする観光産業です。

エ 交通機関は、女満別空港が空路のオホーツク圏の玄関口となっており、令和4年度の年間利用者は73.4万人で、搭乗率が高い状況にあります。鉄道は、JR北海道の石北線が網走市・北見市と札幌市・旭川市方面を1日2往復の特急列車で結んでおり、また、北見市や網走市などの主要市町と道内の主要都市間は、都市間高速バスで結ばれています。

(2) 管内の保健医療福祉圏

住民に身近で頻度の高い保健医療福祉サービスは、市町村が提供することを基本としていますが、専門的なサービスについては、マンパワーや施設などの社会資源を市町の区域を越えて広域的に有効活用する仕組みづくりを進める必要があります。

このため、体系的な地域単位として、第一次から第三次に至る保健医療福祉圏が設定され、保健医療福祉ニーズにきめ細かく対応する体制づくりに取り組んでいます。

ア 第一次保健医療福祉圏

日常生活に密着した身近で頻度の高い保健医療福祉サービスを提供する基本的な区域であり、市町を単位とします。

(ア) 北見保健所管内（北見市、美幌町、津別町、訓子府町、置戸町）

(イ) 網走保健所管内（網走市、斜里町、清里町、小清水町、大空町）

イ 第二次保健医療福祉圏

第一次保健医療福祉圏のサービスの提供機能を広域的に支援するとともに、比較的高度で専門性の高いサービスを提供し、概ね、保健医療福祉サービスの完結を目指す地域単位です。

ここでは、「北網地域保健医療福祉圏」として、北見・網走保健所管内の地域が一つの圏域を構成しています。

また、圏域に合わせて高齢者保健福祉圏も設定され、保健医療資源と福祉資源を広域的に有効活用したサービスが提供されるための枠組みとして構築されています。

ウ 第三次保健医療福祉圏

高度で専門的な保健医療福祉サービスが受けられる地域を単位とします。

ここでは、オホーツク総合振興局管内（網走・北見・紋別保健所管内）が「オホーツク圏域」として一つの圏域を構成しています。

エ 北網地域保健医療福祉圏の現状

(ア) 北見地域は、北見赤十字病院を地域センター病院として、道立北見病院、美幌町立国民健康保険病院、JA北海道厚生連常呂厚生病院及び置戸赤十字病院などの自治体病院や公的病院のほか、民間の医療機関があります。

（18病院、78診療所（うち福祉施設内医務室14）、65歯科診療所、4助産所）

病床数については1,983床（令和6年4月1日現在の病院及び診療所の一般病床・療養病床の合計）となっています。

また、オホーツク第三次医療圏の地方センター病院は、地域センター病院とともに北見赤十字病院が担っています。

(イ) 網走地域は、JA北海道厚生連網走厚生病院を地域センター病院として、斜里町国民健康保険病院及び小清水赤十字病院などの自治体病院や公的病院のほか、民間の医療機関があります。

（8病院、28診療所（うち福祉施設内医務室7）、25歯科診療所、2助産所）

病床数については、857床（令和6年4月1日現在の病院及び診療所の一般病床及び療養病床の合計）となっています。

図1 オホーツク三次保健医療福祉圏域概要図



(3) 人口の推移

ア 人口構造

(ア) 令和3年1月1日現在では北網圏域の人口は207,965人、世帯数は107,527世帯で、北海道の人口の約4%を占めています。

表1 人口・世帯・面積

地域名	令和3年人口(人)			令和3年 世帯数	面積 (km ²)
	総数	男	女		
全道	5,228,732	2,471,013	2,757,719	2,795,571	83,424.41
林-ツ圏域	273,695	131,402	142,293	142,119	10,690.53
北網圏域	207,965	99,987	107,978	107,527	5,542.28
北見市	115,435	54,902	60,533	61,671	1,427.41
美幌町	18,941	9,210	9,731	9,484	438.41
津別町	4,484	2,174	2,310	2,281	716.80
訓子府町	4,810	2,313	2,497	2,094	190.95
置戸町	2,765	1,280	1,485	1,404	527.27
網走市	34,640	16,986	17,654	18,226	471.00
斜里町	11,300	5,577	5,723	5,519	737.13
清里町	3,951	1,942	2,009	1,759	402.76
小清水町	4,676	2,215	2,461	2,062	286.89
大空町	6,963	3,388	3,575	3,027	343.66

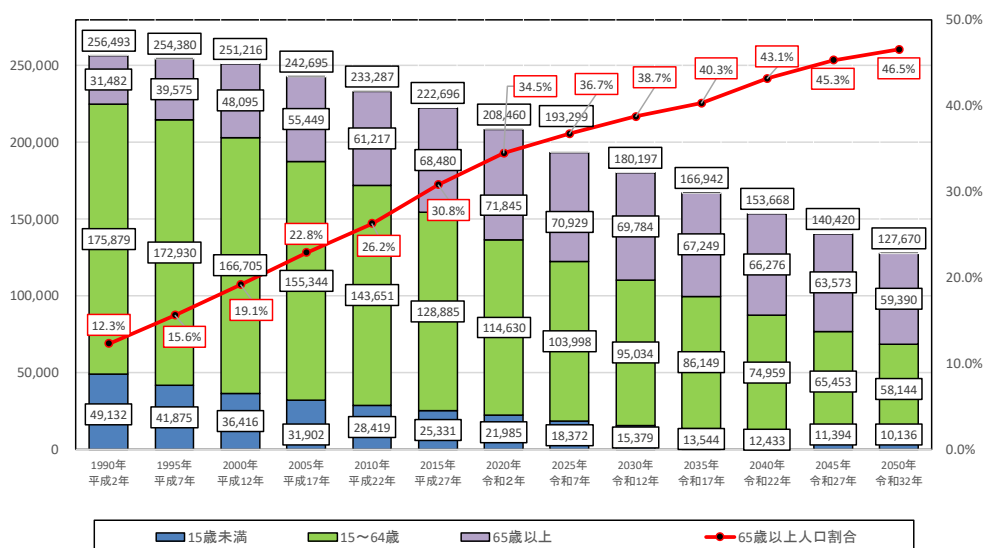
※人口及び世帯数は住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省令和3年1月1日現在）の総計である。

※面積は全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院、令和3年10月1日時点）による。

(イ) 人口推移は、社会経済環境の都市化の影響を受けて漸減しています。

平成2年から令和2年までの国勢調査での人口推移では、北網圏域では48,033人減少しており、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（令和5年推計）では、今後も減少傾向にあり、令和12年（2030年）には、令和2年と比較して約2万8千人（約14%）、令和32年（2050年）には約8万人（約39%）の減少が見込まれています。

図1 国勢調査総人口の推移 (単位：人)

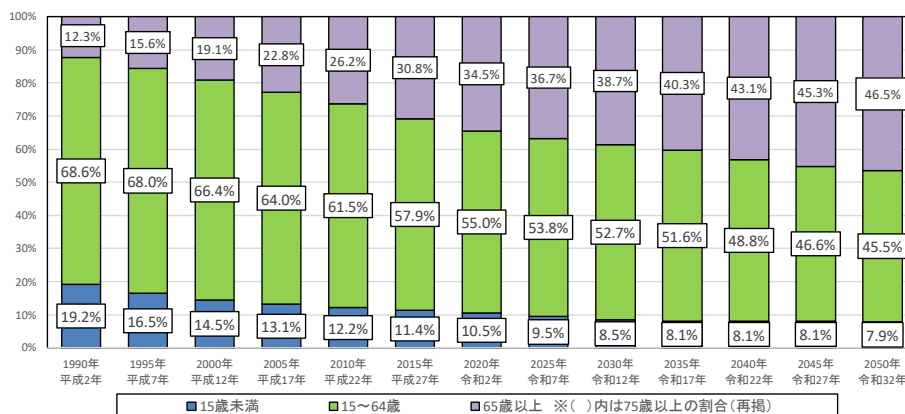


※ 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

(ウ) 年齢三区分別構成割合では、年少人口割合（15歳未満）及び生産年齢人口割合（15歳から64歳）が全道的な傾向と同様に減少しています。65歳以上人口割合は全国的な傾向と同様に年々増加しています。

また、将来推計人口においては、年少人口割合及び生産年齢人口割合は減少傾向にある一方で、65歳以上人口割合は増加する傾向にあり、北網圏域では、令和12年（2030年）には38.7%、令和32年（2050年）には46.5%になると推計されています。

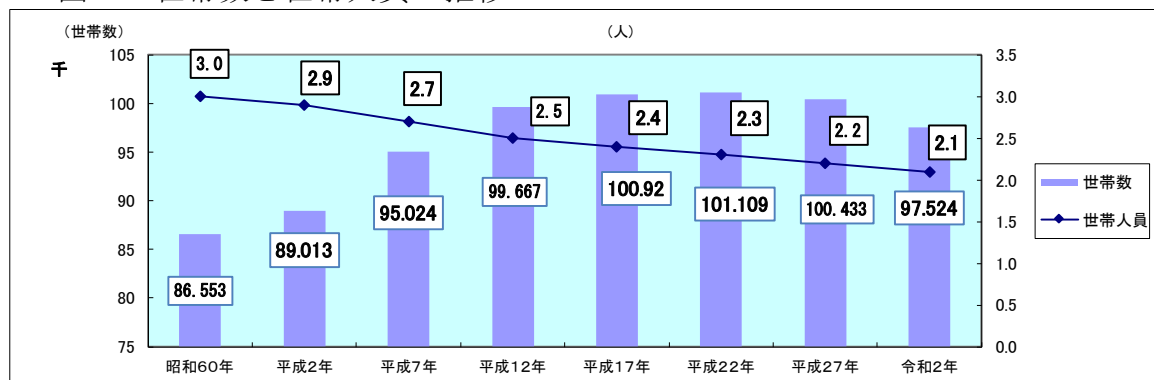
図2 年齢三区分構成割合の推移及び将来推計



※ 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

(エ) 世帯数は令和2年国勢調査では北網圏域の世帯数は97,524世帯となっています。国勢調査の推移を見ると人口は漸減していますが、世帯数は昭和60年から平成22年までは増加傾向にありましたが、平成27年から減少に転じており、一世帯あたりの人員は3.0人から2.1人と減少傾向になっています。

図3 世帯数と世帯人員の推移



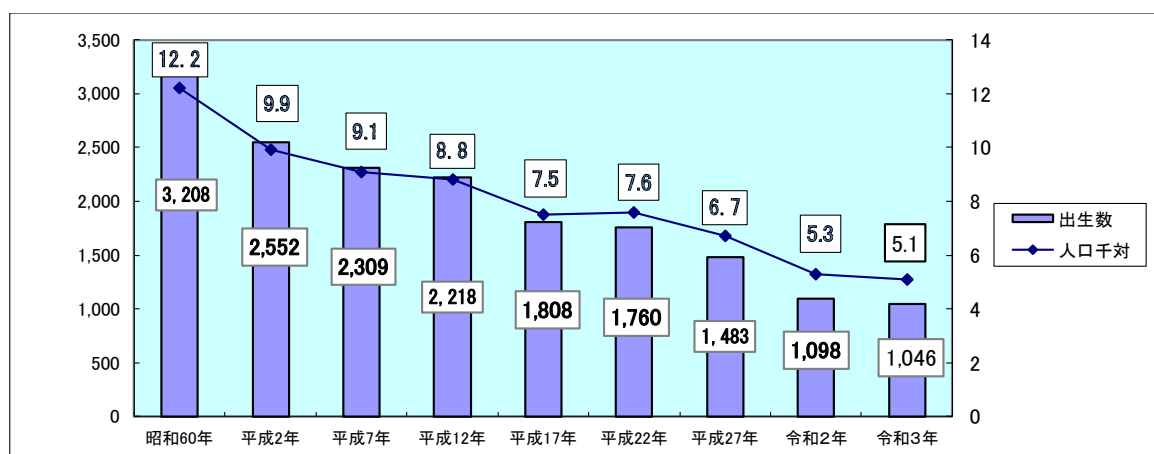
※ 国勢調査

イ 人口動態

(ア) 出生数は昭和60年は3,208人でしたが、令和3年には1,046人となっており、出生率（人口千対）も昭和60年では12.2人でしたが、令和3年には5.1人と減少しており、出生数の減少は大変顕著なものとなっています。

図4 出生数の推移

(単位:人)

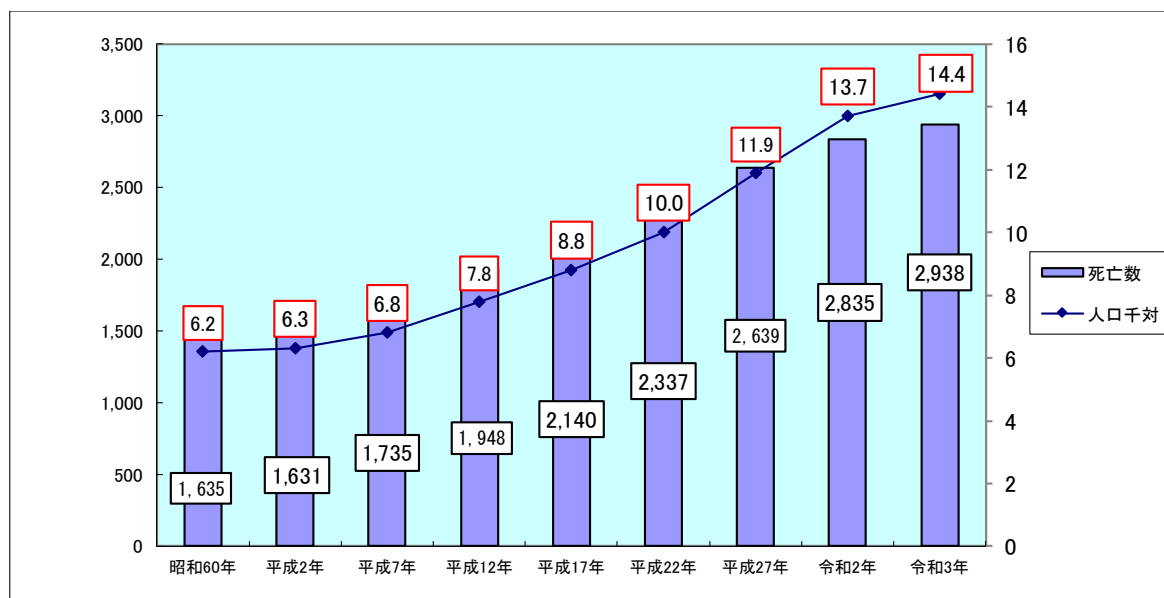


※ 人口動態統計

(イ) 死亡数は、全道的な傾向と同様に年々増加傾向になっており、昭和60年の1,635人に対し、令和3年は2,938人、人口千対でも、昭和60年の6.2人から令和3年の14.4人となっています。

図5 死亡数の推移

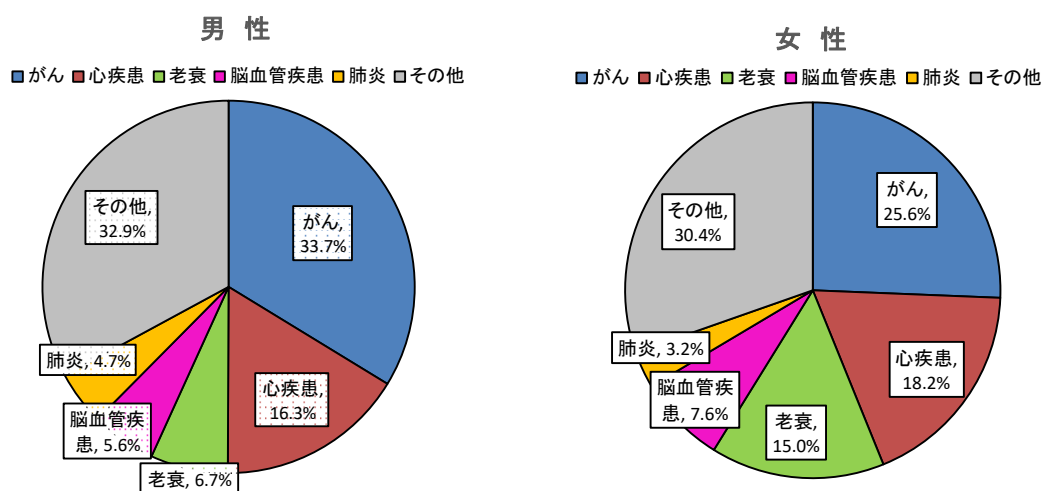
(単位:人)



※ 人口動態統計

(ウ) 令和3年の死因別死亡順位については、死亡総数2,938人のうち、第1位が「がん」(男性33.7%、女性25.6%)、第2位が「心疾患」(男性16.3%、女性18.2%)、第3位が「老衰」(男性6.7%、女性15.0%)となっており、特に女性の老衰が増えています。

図6 令和3年主な死因の割合



※ 人口動態統計

(4) 住民の健康状況

北海道における住民の健康状況は、次のとおりとなっています。

ア 生活習慣の状況

(ア) 運動習慣の状況^{*1}

運動習慣があると回答した者の割合は、20～64歳の男性では22.9%、女性では16.0%となっています。

(イ) 食生活の状況^{*1}

食塩の習慣的な摂取量は、20歳以上男性では平均14.4g、女性では11.6gとなっています。野菜及びきのこ類の習慣的な摂取量は、20歳以上男性では平均266.8g、女性では287.0gとなっています。脂肪エネルギー比率が25%以上の者の割合は、20歳以上男性では49.5%、女性では68.1%となっています。

(ウ) 休養^{*1}

睡眠による疲労回復が得られない者の割合（20歳以上）は、27.1%（前回20.0%）と前回調査に比べ増加傾向にあります。

(エ) 飲酒の状況^{*2}

生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者（1日当たりの純アルコール摂取量が男性で約40g以上、女性20g以上）の割合は、男性では20.5%、女性では15.7%となっています。

(オ) 喫煙の状況

本道の20歳以上の者の喫煙率は、令和4年国民生活基礎調査によると、男性では28.1%（全国25.4%）、女性では13.2%（全国7.7%）と、男女とも減少傾向にあるものの全国平均を上回っています。

イ 生活習慣病の有病者・予備群の数等

(ア) 高血圧の状況^{*3}

循環器疾患の危険因子である高血圧については、「収縮期血圧の平均値」は、40～74歳男性で129mmHg（全国128mmHg）、同女性で124mmHg（全国123mmHg）となっており全国並みです。

(イ) 脂質異常の状況^{*3}

脂質異常症については、「LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合」は、40～74歳男性では14.2%（全国13.8%）、女性では14.3%（全国13.9%）となっており、男女とも全国を上回っています。

*1 令和4年度健康づくり道民調査

*2 令和3年度厚生労働科学研究費補助金研究班調査

*3 第8回NDBオープンデータ（厚生労働省）（令和2年度）

(ウ) 糖尿病の状況^{*1*2}

糖尿病が強く疑われる40～74歳のHbA1cの値が6.5%以上の男性は10.0%（全国9.5%）、女性は4.7%（全国4.7%）、「インスリン注射または血糖を下げる薬」を服用している男性は8.4%（全国8.8%）、女性は3.7%（全国4.8%）となっています。

「糖尿病治療継続者の割合」は、令和4年度健康づくり道民調査によると、「医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある」と回答した者のうち、「過去から現在にかけて継続的に治療を受けている」または「過去に中断したことがあるが現在は受けている」と回答した者は63.3%（20歳以上）と、前回調査から微増しているものの、約4割の方が必要な治療を受けていないことが推測されます。

(エ) 「メタボリックシンドロームの該当者」及び「予備群」の状況^{*3}

「メタボリックシンドロームの該当者」及び「予備群」については、令和3年度の特健康診査結果では、該当者は17.8%（全国16.6%）、予備群は12.6%（全国12.5%）となっています。

*1 第8回NDBオープンデータ（厚生労働省）

*2 HbA1c (NGSP値): 過去1～3か月の血糖値を反映した血糖コントロールの指標

*3 令和3年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ（厚生労働省）

(5) 患者の受療動向

入院医療に係る受療動向について、北網圏域のデータを見ると、入院自給率、外来自給率ともに全道平均を上回る自給率を示しており、流出先圏域として札幌、上川中部、釧路地域への受診が見られます。

また、外来においては、全道で7番目に高い自給率となっていますが、全国を上回る少子高齢化などを踏まえると、移動の手段が限られる高齢者への対応が課題となります。

表2 入院患者の受療動向

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比							
南 渡 島	97.6%	札 幌	2.10%	北 渡 島 檜 山	0.06%	西 胆 振	0.06%	そ の 他	0.16%
南 檜 山	15.7%	南 渡 島	77.46%	札 幌	5.05%	北 渡 島 檜 山	0.87%	そ の 他	0.92%
北 渡 島 檜 山	29.9%	南 渡 島	54.82%	札 幌	9.89%	西 胆 振	4.50%	そ の 他	0.90%
札 幌	99.1%	後 志	0.19%	南 空 知	0.17%	東 胆 振	0.13%	そ の 他	0.46%
後 志	71.9%	札 幌	26.39%	西 胆 振	1.41%	南 渡 島	0.10%	そ の 他	0.22%
南 空 知	58.3%	札 幌	37.05%	中 空 知	3.90%	東 胆 振	0.18%	そ の 他	0.58%
中 空 知	80.4%	札 幌	12.37%	上 川 中 部	4.13%	南 空 知	1.01%	そ の 他	2.06%
北 空 知	63.4%	上 川 中 部	24.57%	中 空 知	9.43%	札 幌	2.14%	そ の 他	0.45%
西 胆 振	91.0%	札 幌	8.14%	東 胆 振	0.47%	後 志	0.15%	そ の 他	0.21%
東 胆 振	83.0%	札 幌	12.56%	西 胆 振	3.90%	南 空 知	0.11%	そ の 他	0.43%
日 高	22.7%	札 幌	35.32%	東 胆 振	34.71%	十 勝	4.96%	そ の 他	2.28%
上 川 中 部	97.9%	札 幌	1.30%	北 空 知	0.23%	中 空 知	0.17%	そ の 他	0.37%
上 川 北 部	68.6%	上 川 中 部	27.52%	札 幌	2.68%	中 空 知	0.73%	そ の 他	0.50%
富 良 野	59.5%	上 川 中 部	36.33%	中 空 知	2.21%	札 幌	1.37%	そ の 他	0.58%
留 萌	56.5%	上 川 中 部	19.32%	札 幌	16.35%	北 空 知	3.76%	そ の 他	4.10%
宗 谷	54.1%	札 幌	18.05%	上 川 中 部	14.57%	上 川 北 部	12.49%	そ の 他	0.81%
北 網	92.5%	札 幌	4.63%	上 川 中 部	1.77%	釧 路	0.66%	そ の 他	0.49%
遠 紋	56.7%	北 網	19.29%	上 川 中 部	13.19%	札 幌	5.81%	そ の 他	5.04%
十 勝	95.8%	札 幌	3.10%	北 網	0.45%	上 川 中 部	0.26%	そ の 他	0.43%
釧 路	96.9%	札 幌	2.36%	十 勝	0.34%	北 網	0.18%	そ の 他	0.25%
根 室	27.0%	釧 路	62.76%	札 幌	8.30%	北 網	0.89%	そ の 他	1.08%

表3 外来患者の受療動向

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比							
南 渡 島	98.8%	札 幌	0.37%	南 檜 山	0.06%	北 渡 島 檜 山	0.05%	そ の 他	0.77%
南 檜 山	65.6%	南 渡 島	32.89%	札 幌	0.96%	北 渡 島 檜 山	0.22%	そ の 他	0.35%
北 渡 島 檜 山	71.9%	南 渡 島	20.35%	西 胆 振	3.46%	札 幌	2.54%	そ の 他	1.80%
札 幌	98.4%	南 空 知	0.23%	後 志	0.10%	東 胆 振	0.10%	そ の 他	1.21%
後 志	88.5%	札 幌	9.73%	西 胆 振	0.61%	北 渡 島 檜 山	0.10%	そ の 他	1.07%
南 空 知	85.3%	札 幌	13.26%	中 空 知	0.87%	東 胆 振	0.08%	そ の 他	0.46%
中 空 知	88.9%	札 幌	3.70%	南 空 知	1.97%	上 川 中 部	1.81%	そ の 他	3.67%
北 空 知	81.0%	上 川 中 部	11.79%	中 空 知	4.90%	札 幌	1.23%	そ の 他	1.08%
西 胆 振	97.1%	札 幌	1.91%	東 胆 振	0.44%	後 志	0.05%	そ の 他	0.52%
東 胆 振	93.5%	札 幌	4.55%	西 胆 振	1.64%	日 高	0.08%	そ の 他	0.26%
日 高	77.8%	東 胆 振	12.02%	札 幌	6.78%	十 勝	2.69%	そ の 他	0.74%
上 川 中 部	98.4%	札 幌	0.41%	富 良 野	0.10%	北 空 知	0.08%	そ の 他	1.06%
上 川 北 部	86.0%	上 川 中 部	12.58%	札 幌	1.05%	宗 谷	0.08%	そ の 他	0.31%
富 良 野	84.4%	上 川 中 部	13.44%	札 幌	1.18%	十 勝	0.43%	そ の 他	0.58%
留 萌	85.6%	上 川 中 部	5.45%	札 幌	4.85%	北 空 知	1.51%	そ の 他	2.61%
宗 谷	82.8%	札 幌	5.80%	上 川 北 部	5.64%	上 川 中 部	4.36%	そ の 他	1.40%
北 網	96.8%	札 幌	0.96%	上 川 中 部	0.26%	釧 路	0.15%	そ の 他	1.80%
遠 紋	83.3%	北 網	9.47%	上 川 中 部	2.80%	札 幌	2.15%	そ の 他	2.33%
十 勝	97.6%	札 幌	0.67%	北 網	0.25%	富 良 野	0.12%	そ の 他	1.33%
釧 路	97.9%	札 幌	0.57%	根 室	0.31%	十 勝	0.19%	そ の 他	1.02%
根 室	77.7%	釧 路	16.78%	札 幌	1.96%	北 網	0.19%	そ の 他	3.42%

※入院患者、外来患者の受療動向：北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課調べ（令和4年度）

(6) 医療施設

ア 病院の現況（令和6年4月1日現在）

(ア) 病院数は、北見保健所管内18か所、網走保健所管内8か所、合計26か所となっています。

(イ) 病床数は、全道の状況と同様に年々減少しており、北見保健所管内2,131床、網走保健所管内926床、合計3,057床となっています。

表4 病院数と病床数（令和6年4月1日現在）

区 分	病院数	許 可 病 床 数					
		一般	療養	精神	結核	感染	計
北見保健所管内	18	1,386	403	340	0	2	2,131
網走保健所管内	8	612	207	105	0	2	926
北網圏域計	26	1,998	610	445	0	4	3,057

※ 北見保健所・網走保健所調

イ 診療所等の現況（令和6年4月1日現在）

(ア) 一般診療所数は、北見保健所管内78か所、網走保健所管内28か所、合計106か所となっており、このうち、有床診療所は、15か所（14.2%）、無床診療所は、91か所（85.8%）となっています。

(イ) 歯科診療所数は、北見保健所管内65か所、網走保健所管内25か所、合計90か所であり、すべて無床診療所です。

(ウ) 助産所数は、北見保健所管内4か所、網走保健所管内2か所、合計6か所となっており、そのうち入所施設のある助産所は、1施設（入所定員数2）となっています。

表5 一般診療所数、歯科診療所数と助産所数（令和6年4月1日現在）

区 分	一 般 診 療 所	有床診療所		無 床 診療所	歯 科 診療所	助 産 所 (入所)
		有床診療所	病床数			
北見保健所管内	78	13	194	65	65	4 (1)
網走保健所管内	28	2	38	26	25	2
北網圏域計	105	15	232	90	90	8 (1)

※ 北見保健所・網走保健所調

ウ 薬局の現況

薬局数は、令和6年4月1日現在、北見保健所管内58か所、網走保健所管内25か所、合計83か所となっており、ほぼ横ばいになっています。

表6 薬局数（令和6年4月1日現在）

区 分	薬 局 数
北見保健所管内	58
網走保健所管内	25
北網圏域計	83

※ 北見保健所・網走保健所調

エ 訪問看護ステーションの現況

訪問看護ステーション数は、令和6年4月1日現在、北見保健所管内14か所、網走保健所管内7か所、合計21か所となっており、増加傾向となっています。

表7 訪問看護ステーション数（令和6年4月1日現在）

区 分	訪問看護ステーション数
北見保健所管内	14
網走保健所管内	7
北網圏域計	21

※ 北見保健所・網走保健所調

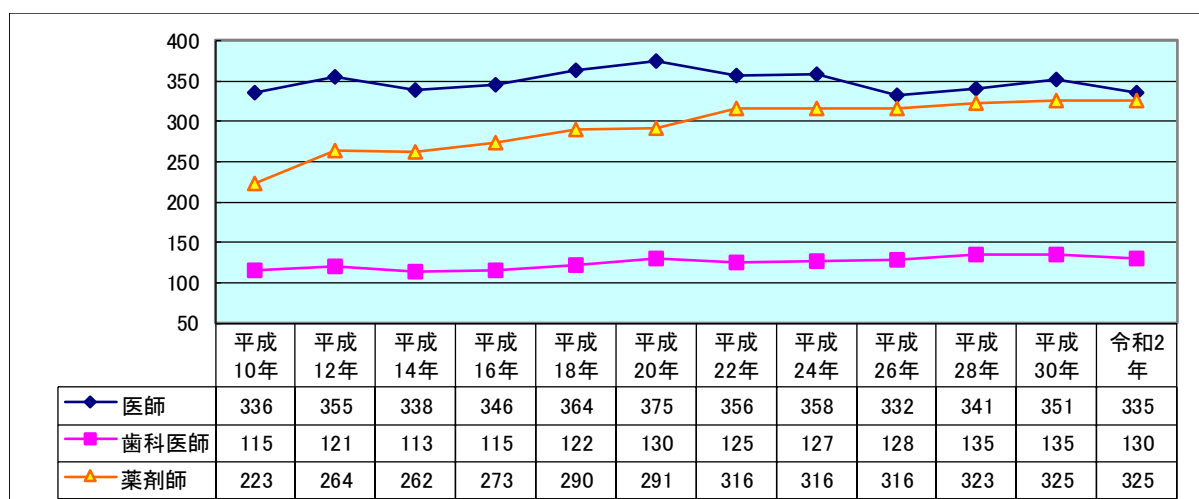
(7) 保健医療従事者数

ア 医師、歯科医師、薬剤師の状況

医師は減少、歯科医師は横ばい、薬剤師は増加傾向となっており、令和2年では、10年前の平成22年と比較して、医師は21人（5.9%）の減、歯科医師は5人（4.0%）、薬剤師は9人（2.8%）の増加となっています。特に医師については、全国・全道において増加していますが、北網圏域では減少しています。

図7 医師・歯科医師・薬剤師の状況

（単位：人）



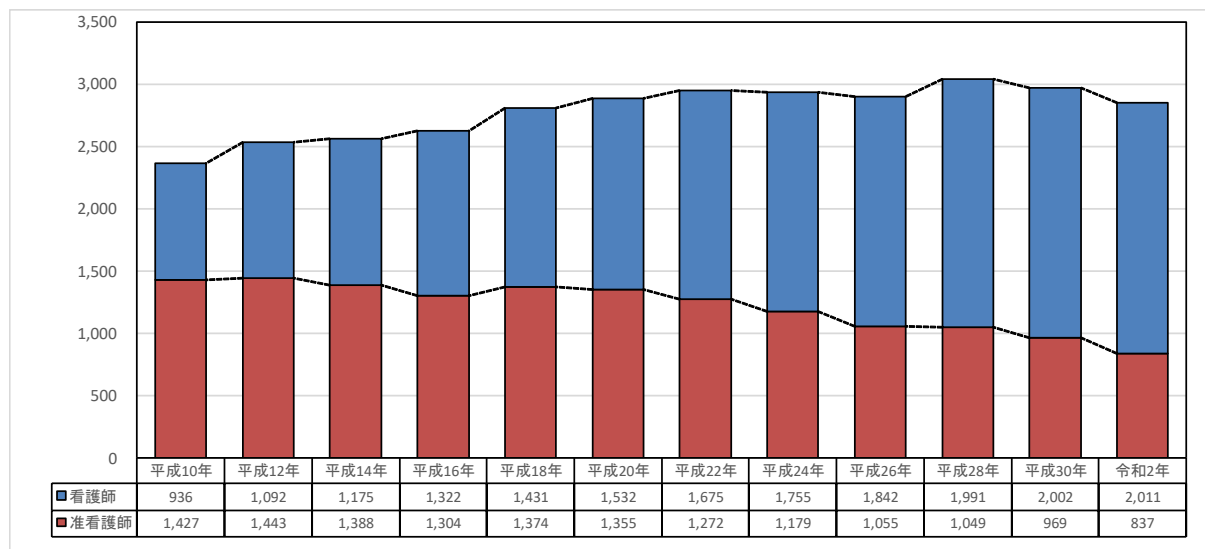
※ 医師・歯科医師・薬剤師調査

イ 看護師及び准看護師の状況

看護師と准看護師の合計人数は平成28年までは増加していましたが、その後は減少しています。准看護師が10年前の平成22年と比較して435人（34.2%）減少しているのに対し看護師は増加していますが336人（20.1%）です。

図8 看護師・准看護師の状況

（単位：人）



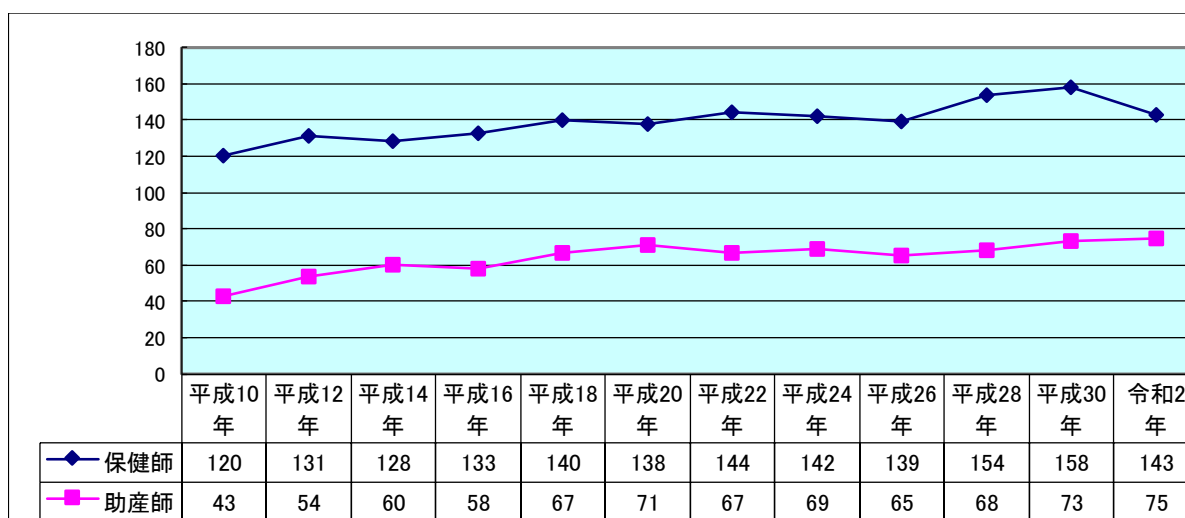
※ 看護師等従事者届

ウ 保健師及び助産師の状況

保健師及び助産師は微増傾向となっており、10年前の平成22年と比較して、保健師は1人（0.7%）減少し、助産師は8人（11.9%）増加しておりますが、保健師は平成30年から令和2年にかけて15人減少しています。

図9 保健師・助産師の状況

（単位：人）



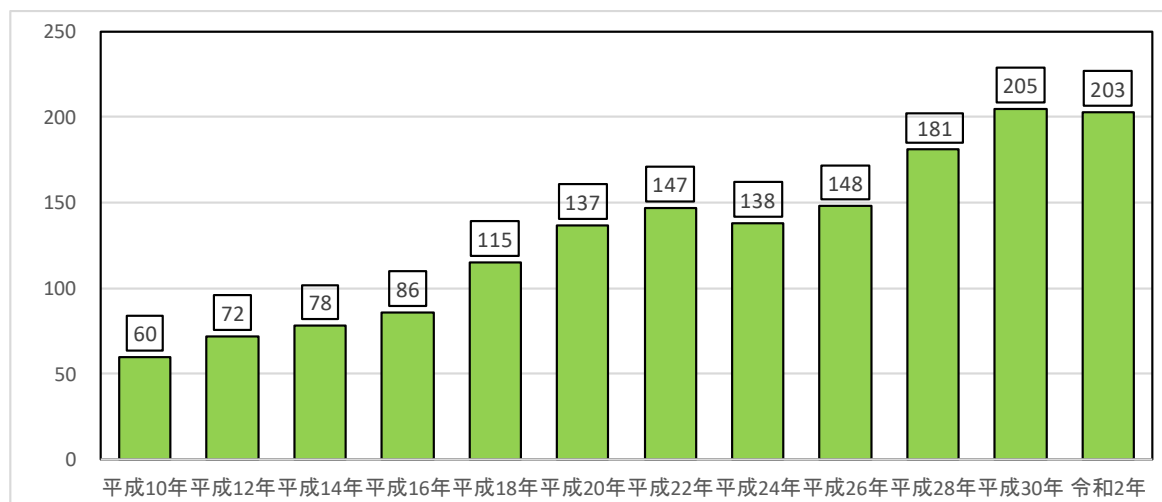
※ 看護師等従事者届

エ 歯科衛生士の状況

歯科衛生士は増加傾向にあり、令和2年では、10年前の平成22年と比較して、56人（38.1％）の増加となっています。

図10 歯科衛生士の状況

（単位：人）



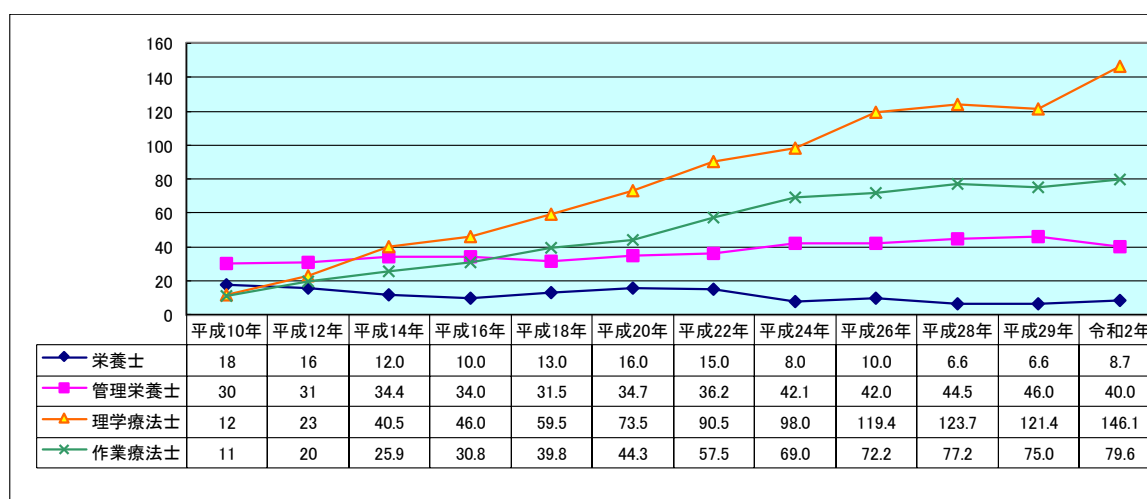
※ 歯科衛生士従業者届

オ その他病院従事者の状況

令和2年では、10年前の平成22年と比較して、栄養士は6.3人（42.0％）の減、管理栄養士は3.8人（10.5％）、理学療法士は55.6人（61.4％）、作業療法士は22.1人（38.4％）の増加となっています。（いずれも常勤換算数）

図11 その他病院従事者の状況

（単位：人）



※ 北海道保健統計年報

※ 平成14年以降は常勤換算後の人員

※ 理学療法士、作業療法士は平成15年から診療所（助産所）運営状況報告が廃止されたため、病院のみの従事者数です。